

三方五湖学習

福井県立大学オープンカレッジ

福井県立大学では、「ラムサール条約登録湿地 三方五湖の自然再生への取り組み」をテーマとしたオープンカレッジ（全6回、10月18日（日）～11月22日（日））を開催し、三方五湖とその周辺地域で展開されている自然再生の取組とその成果を紹介しました。

- 第1回：「三方湖」にどんな生き物がいるの？
【講師】富永修／海洋生物資源臨海研究センター教授
- 第2回：(1)2009年に三方五湖へ侵入した外来魚ブルーギルを低密度管理するためのお話
【講師】坪井佑太／福井県立大学大学院2年

- (2)田んぼで魚を育てる
【講師】井下眞／福井県立大学大学院2年
- 第3回：三方五湖の漁労文化
【講師】中村亮／福井県里山里海湖研究所 研究員
- 第4回：三方五湖のひと昔まえの水辺の風景
【講師】関岡 裕明／ハスプロジェクト推進協議会事務局
- 第5回：花粉から見る三方五湖周辺の過去100年の移り変わり
【講師】北川淳子／福井県里山里海湖研究所 主任研究員
- 第6回：三方五湖の植物をまもろう！湖岸の植物は減り、ヒシは増えた
【講師】石井潤／福井県里山里海湖研究所 研究員



自然再生関連会議等開催情報

- ◆外来生物等対策部会
 - ・平成27年10月24日…外来生物駆除イベント
- ◆シジミのなぎさ部会
 - ・平成27年11月20日…部会会議

三方五湖のなかまたち

ダルマガエル（アカガエル科）



・体長5～6.5cm
・トノサマガエルによく似ているが、手足が短くダルマ型をし、背中の中央を通る背中線がない。

・背面の暗色斑は孤立し、腹面にのどから腹部にかけて細かい暗色斑がある。

- ◇環境省RLカテゴリー：絶滅危惧Ⅱ類
- ◇福井県RDBカテゴリー：県域絶滅危惧Ⅱ類

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

竜串自然再生協議会（高知県）より三方五湖視察



9月11日（金）、12日（土）の二日間にわたり、竜串自然再生協議会（高知県土佐清水市）の関係者が、三方五湖の自然再生の取組を視察訪問しました。自然再生協議会関係者と自然再生の取組について意見交換をしました。

問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
TEL 0776-20-0305
- 美浜町住民環境課
〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷土25-25
TEL 0770-32-6703
- 若狭町環境安全課
〔三方庁舎〕
〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
TEL 0770-45-9126
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
〔若狭三方縄文博物館内〕
〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
TEL 0770-45-2270

このニュースレターは「平成27年度生物多様性保全推進交付金（環境省）」を使用しています。

三方五湖 ニュースレター



No. 08
平成27年12月1日発行



外来生物を捕ろう！

目次

- 外来生物を捕ろう！、三方五湖自然再生実習の成果報告・意見交換会、久々子湖のシジミ調査 …… 1
- 田んぼでフナを育てる、三方湖のヒシ管理 …… 2
- 三方五湖学習、自然再生関連会議等開催状況、自然再生取組の現場から、三方五湖のなかまたち …… 3

外来生物を捕ろう!

10月24日(土)、縄文ロマンパーク(はす川河口)において、外来生物等対策部会イベント「被害を与える外来生物を捕まえよう!」が開催され、若狭町内外から家族連れが参加しました。

イベント前半は、室内において福井県立大学の富永教授から湖に生息する外来生物のお話を聞きました。後半は、外来生物捕獲のために、事前に仕掛けられたかご罠を引き上げました。



富永教授による外来生物のお話

参加者たちは、かご罠で捕獲された特定外来生物のブルーギルやウシガエルを観察しながら、外来生物が三方湖の生きものや漁業に与える影響を学びました。



仕掛けたかご罠の引き上げ体験



かご罠で捕獲したウシガエルの幼体

三方五湖自然再生実習の成果報告・意見交換会

9月9日(水)の夜、東京大学と福井県立大学の学生皆さまによる「三方五湖自然再生実習の成果報告・意見交換会」が、東京大学・福井県里山里海湖研究所の共催として、福井県立三方青年の家にて開催されました。

東京大学は、5年前より三方五湖をフィールドに学生実習として三方五湖の自然環境の調査を実施しています。今年は、久々子湖と三方湖でコンクリート護岸と自然護岸を比較対象に、水質、底土、水辺の植生、水生生物等の調査を実施し、その調査結果の報告と、今後の湖岸のあり方について提案がありました。



久々子湖のシジミ調査

11月20日(金)の夜、美浜町の久々子生活改善センターにて、シジミのなぎさ部会が開催され、福井県立大学の青海副学長より、久々子湖におけるヤマトシジミの生息環境調査についての中間報告がありました。

今回の調査結果からヤマトシジミの成長に関して次のことが明らかになりました。

- ①4月から11月によく成長する。
- ②12月から3月に成長は停滞する。
- ③水深80cmよりも50cmのほうが初期成長に優れたが、その後は同様に成長する。

上記のこと以外にも、シジミの食物源の推定やカモによる食害の推定調査、波浪観測等が実施されています。



田んぼでフナを育てる(海山漁協)

海山漁業協同組合では、福井県立大学、福井県水産課、福井県海浜自然センターと連携し、湖辺の田んぼでのコイ・フナの稚魚育成に取り組まれています。菅湖畔にある放棄田を育成田として整備し、この春、コイやフナの卵のついたシュロを投入しました。

9月17日(木)には、育成田で育ったコイとフナの稚魚が計測されました。

〔稚魚育成田で育ったコイ・フナ〕

- ・コイ…35匹 (816g)
- ・フナ…603匹 (2,155g)

左: コイの稚魚
右: フナの稚魚



育成田の整備

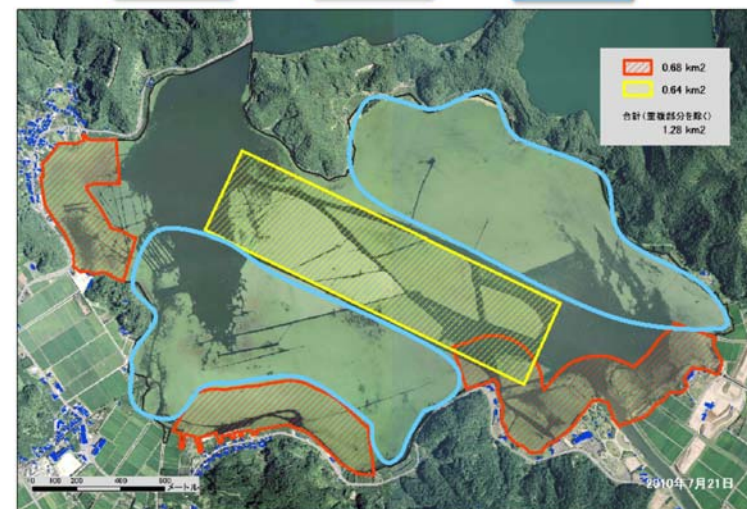
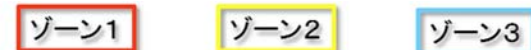


コイ・フナの稚魚計測等

三方湖のヒシ管理

ヒシ管理のゾーニング案提示

10月17日(土)、若狭町中央公民館第一会議室にて、外来生物等対策部会が開催されました。同部会では、平成27年度末に「三方湖ヒシ対策ガイドライン」をとりまとめる計画となっています。同日の会議では、ガイドラインの中間報告書が配布され、これまで実施されてきたヒシ対策の取組や、ヒシが繁茂することによる影響が示されました。



ヒシの管理ゾーニング(案)

会議では、ヒシは、水辺景観の悪化や岸辺に打ち寄せたヒシの腐敗臭などの悪影響がある一方で、コンクリートで固められた護岸のかわりに、多様な生物の生息場所としてプラスの効果もあることが報告されました。そこで、「生活環境等の悪化防止」と「生物多様性の確保」を両立するヒシ管理のゾーニングが検討されました。このゾーニングはまだ決定されたものではなく、今後の部会等での意見を聞きながら設定されることとなります。

ゾーンごとの景観イメージ等(案)

ゾーン	景観イメージ	求める機能	管理方針
ゾーン1	ヒシが、まばらに分布するか、分布せず湖面が見渡せる景観	ヒシが枯れる際に堆積することがない湖面が見える景観構成	住宅や施設のある湖岸から200m程度の沖合まで、可能な限りヒシを刈取る
ゾーン2	ヒシが、まばらに分布するか、分布せず湖面が見渡せる景観	湖水の流動性が確保される船の航行が確保される	はす川河口から下流方向に湖流の中心部で、可能な限りヒシを刈取る
ゾーン3	湖岸の水草帯のような景観で、ヒシが湖面を自然に繁茂している景観	湖岸植生(エコトーン)の代替機能(多様な生物への生息地の提供)	刈取りせず自然のままに繁茂させるか、生態系機能を向上させるために部分的な刈取る